明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

Twitter
YouTube

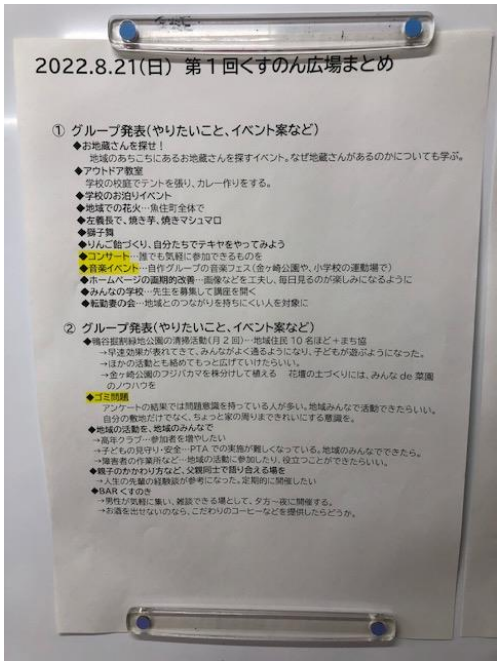
KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.192
2022
12.21

明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

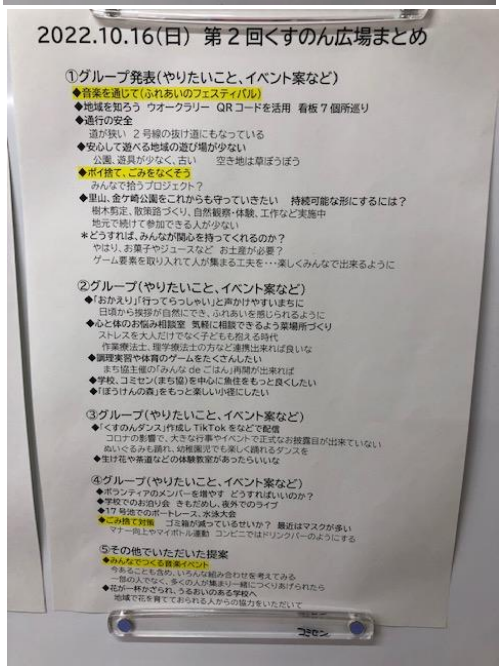
魚住小コミセン
「くすのん広場」が開かれました

12月18日（日）に魚住小コミセンで、魚住地区のこれからについて自由に誰でもが参加し話し合える場である「くすのん広場」が開かれました。8月21日、10月16日につづいて3回目の開催となります。これまで話し合われた中で、実際に有志で鴨谷公園の清掃が始まるなど、できることから具体化されているようです。そんな、話し合いがどのような雰囲気の中でおこなわれているのか、覗きにいかせていただきました。小学校では、6年生が国語科の「町の幸福論」でまちづくり協議会さんが出前授業をされたり、「くすのん広場」のことを先生が子どもたちに紹介されたこともあり、十数名の児童が参加していました。また、お父さんと一緒に参加したという中学生もおり、小学生、中学生を含め、保護者世代、高齢世代という幅広い世代を超えての対話がおこなわれました。


2022.8.21(日) 第１回くすのん広場まとめ

① グループ発表(やりたいこと、イベント案など)
◆お地蔵さんを探せ！
地域のあちこちにあるお地蔵さんを探すイベント。なぜ地蔵さんがあるのかについても学ぶ。
◆アウトドア教室
学校の校庭でテントを張り、カレー作りをする。
◆学校のお泊りイベント
◆地域での花火…魚住町全体で
◆左義長で、焼き芋、焼きマシュマロ
◆獅子舞
◆りんご飴づくり、自分たちでテキヤをやってみよう
◆コンサート…誰でも気軽に参加できるものを
◆音楽イベント…自作グループの音楽フェス(金ヶ崎公園や、小学校の運動場で)
◆ホームページの面期的改善…画像などを工夫し、毎日見るのが楽しみになるように
◆みんなの学校…先生を募集して講座を開く
◆転勤妻の会…地域とのつながりを持ちにくい人を対象に

② グループ発表(やりたいこと、イベント案など)
◆鴨谷緑新緑地公園の清掃活動(月２回)…地域住民 10名ほど＋まち協
→早速効果が表れてきて、みんながよく通るようになり、子どもが遊ぶようになった。
→ほかの活動とも絡めてもっと広げていけたらいい。
→金ヶ崎公園のフジバカマを移分けして植える　花壇の土づくりには、みんな de 菜園のノウハウを
◆ゴミ問題
アンケートの結果では問題意識を持っている人が多い。地域みんなで活動できたらいい。
自分の敷地だけでなく、ちょっと家の周りまできれいにする意識を。
◆地域の活動を、地域のみんなで
→高年クラブ…参加者を増やしたい
→子どもの見守り・安全…PTA での実施が難しくなっている。地域のみんなでできたら。
→障害者の作業所など…地域の活動に参加したり、役立つことができたらいい。
◆親子のかかわり方など、父親同士で話し合える場を
→人生の先輩の経験談が参考になった。定期的に開催したい
◆BAR くすのき
→男性が気軽に集い、雑談できる場として、夕方～夜に開催する。
→お酒を出せないのならば、こだわりのコーヒーなどを提供したらどうか。


2022.10.16(日) 第２回くすのん広場まとめ

①グループ発表(やりたいこと、イベント案など)
◆音楽を通じて(ふれあいのフェスティバル)
◆地域を知ろう ウオークラリー QRコードを活用 看板７個所巡り
◆通行の安全
道が狭い ２号線の抜け道にもなっている
◆安心して遊べる地域の遊び場が少ない
公園、遊具が少なく、古い　空き地は草ぼうぼう
◆ポイ捨て、ごみをなくそう
みんなで拾うプロジェクト？
◆里山、金ケ崎公園をこれからも守っていきたい　持続可能な形にするには？
樹木剪定、散策路づくり、自然観察・体験、工作など実施中
地元で続けて参加できる人が少ない
＊どうすれば、みんなが関心を持ってくれるのか？
やはり、お菓子やジュースなど　お土産が必要？
ゲーム要素を取り入れて人が集まる工夫を・・・楽しくみんなで出来るように

②グループ(やりたいこと、イベント案など)
◆「おかえり」「行ってらっしゃい」と声かけやすいまちに
日頃から挨拶が自然にでき、ふれあいを感じられるように
◆心と体のお悩み相談室　気軽に相談できるよう薬場所づくり
ストレスを大人だけでなく子ども も抱える時代
作業療法士、理学療法士の方など連携出来れば良いな
◆調理実習や体育のゲームをたくさんしたい
まち協主催の「みんな de ごはん」再開が出来れば
◆学校、コミセン(まち協)を中心に魚住をもっと良くしたい
◆「ほうけんの森」をもっと楽しい場にしたい

③グループ(やりたいこと、イベント案など)
◆「くすのんダンス」作成し TikTok をなどで配信
コロナの影響で、大きな行事やイベントで正式なお披露目が出来ていない
ぬいぐるみも踊れ、幼稚園児でも楽しく踊れるダンスを
◆生け花や茶道などの体験教室があったらいいな

④グループ(やりたいこと、イベント案など)
◆ボランティアのメンバーを増やす　どうすればいいのか？
◆学校でのお泊り会　きもだめし、夜外でのライブ
◆17号沿でのボートレース、水泳大会
◆ごみ捨て対策　ゴミ箱が減っているせいか？ 最近はマスクが多い
マナー向上やマイボトル運動　コンビニではドリンクバーのようにする

⑤その他でいただいた提案
◆みんなでつくる音楽イベント
今あることも含め、いろんな組み合わせを考えてみる
一部の人だけで、多くの人が集まり一緒につくりあげられたら
◆花が一杯かざられ、うるおいのある学校へ
地域で花を育てておられる人からの協力をいただいて

この会には①自由に参加、②否定・批判はしない、③テーマは決めない、といった3大ルールがありそのルールに沿って、自由な雰囲気でフランクな対話がおこなわれました。

「一度、廊下を思いっきり走り回ってみたい」、「校則のない日がほしい」といった子どもたちの発言も大人が「おっちゃんも子どもの頃そう思っていた。コスプレで登校する日があってもいいな」と投げ返しながら、「それならどうしたら」と対話がすすんでいくのを見ながら、今、ブラック校則と話題になることが多いですがこうした雰囲気の中で子どもたちと大人とで対話することで、子どもと大人が共有できる新たな価値が生まれてくるのではと思いました。

また、つながりという話題の中でも魚住小校区だけでなく、清水小や錦が丘小などとなりの校区とも交流ができたらいいなといった話題、世代を超えたつながりを持つために何かできないかといった話題などどんどん話が広がっていきました。その中で、魚住小には第 2 校歌として「クスノキすくすく大作戦」という歌があります。今から 10 年ほど前につくられた曲ですが、その曲に小さな子からお年寄りまで一緒に踊れる振り付けをつけてはといった話になり、子どもたちが参加された地域の方にクスノキすくすく大作戦の歌を披露する場面もありました。

くすのん広場に参加しながら、地域の人との対話の場として、これまで松が丘小がすすめている「松が丘サミット」のような交流の場をみてきましたが、くすのん広場のように、子どもが地域の集まりに“この指とまれ方式”で参加する方法もあるんだと、対話のやり方はまだまだ工夫ができるんだと感じました。

そして、参加した子どもたちは次のような感想を述べていました。

「お父さんについてきたが、最初はめんどくさい会だなと思っていたが、話し合っているうちに地域のことを考えながら話をすることが楽しくなってきた。ぜひ次回も参加したい」

「今日で 2 回目の参加だけど、この前よりも楽に話をすることができた」

etc.

どの子たちからも「次回も参加したい」、「何か話し合ったことから実現できたらいいな」と積極的な感想を述べていました。

こうした経験を積み重ねていく中で、非認知スキルが身につき、市民として成長していくんだろうなと感じました。

今年度は 2 月、3 月とあと 2 回開かれますが、どんな対話になっていくか楽しみです。

神戸の小中学校に「チーム担任制」導入へ

2023 年度より、神戸市の一部の市立小中学校で、学級担任を固定せず、複数の教員でローテーションする「チーム担任制」を導入するというニュースが神戸新聞や MBSNEWS でながれているのを目にしました。以前から丹波市立中央小学校で 5・6 年の先生がチームを組んで担任をしているということに興味がありましたが、自分たちの学校ならと校内で検討してみてもいいのではと考えます。学校教育目標を検討し、学校教育目標の実現に向けて、自分たちの学校にあった仕組としてこうした担任の仕組なども考えてみることが今必要なのではと考えます。そして、持続可能な形として根付いていくためには、“くすのん広場”ではありませんが、フランクな対話に乗せていくということが大切なんだと思います。そこに子どもたちも参加するのが普通といった時代がすぐそこにまで来ているような気がします。（文責：北本）

神戸新聞記事　　MBSNEWS